

歴史上より見たる鷹丘地区

名古屋市立大学名誉教授

藤井 隆

元豊橋市美術博物館館長

一、飽海河による街道の二つの道筋

〈豊川〉

○飽海河の渡船（しかすがの渡）

○今橋架橋

貞応三年頃
1224

承和2年六月二十九日太政官符初見
835

国府―渡津（小坂井）―飽海渡―高師―浜名

○豊川より飽海河渡河

国府―本野ガ原―豊川―飽海河渡河―峯野原

（玉川、森岡、忠興）―多米―岩崎―雲谷―浜名

二、峯野の原

海道記 貞応二年作者不明（伝源光行）
1223

かくて本野が原を過れば。頼かりし蕨は春の心を生替りて。秋の色うとけれども。分行駒は鹿の毛に見ゆ。時に日重山にかくれて。月星躍に顕れぬ。暁をはやめて豊河の宿にとまりぬ。深夜に立出てみれば。此川はながれひろく水ふかくして。まことにゆたかなる渡也。河の石瀬に落ちる波の音は月の光にこえたり。河邊に

…三行略…

十日。豊河を立て野くれ里くれはるばるとすぐれば。峯野の原と云所有。日野の草の露より出て若木の枝にのぼらず。雲は峯の松風には…

東関紀行 仁治三年 作者不明
1242

豊河と云宿の前をうち過るに。ある者のいふをきけば。此みちおぼ昔よりよぐるかたなかりし程に近比より俄にわたふ葎の今道と云かたに旅人おほくかゝる間。いまはその宿は人の家居をさえ外にのみうつすなどぞいふなる…

牧野古白

○今橋城

永正二年築 一名峯野城
1505

○本坂通 豊川宿
（姫街道）

（吉田城） 大永二年頃改名
1522

―飽海河渡河―本坂峠

峯野の原は本坂通より南、弓張山系の西、飽海河の東、南限は岩田辺まで位の、平野を云ったようである。するとその南北の中心の東が忠興、西が牛川となる。

三、忠興山竜雲寺建立と銭亀池

正保二年 忠興山竜雲寺（開山） 竜雲和尚
1645

本尊、一宝観音 △細川幽斎自作、子の忠興に与えた。

同 年中 吉田藩が銭亀池（殿様池）を造る。△小笠原家の時
1652～55

承応 年中 中竜雲寺が開発に力を入れ、山号が村名となり

忠興村おこる。

四、各新田開発と神社創建

貞享三年十月忠興新田開発時 忠興八幡社創建。¹⁶⁸⁴

元禄三年四月小鷹野新田開発時 小鷹野神明社創建。¹⁶⁹⁰

同 頃 中沢新田開発時 中沢神明社創建。

(明治二六年石巻平野へ遷座)

同十六年 野川新田開発時 野川神明社創建。¹⁷⁰³

(昭和三二年忠興八幡社に合祀)

五、信明公代 (明和七年七月十二日〜文化十四年八月二八日)^{1770〜1817}

付、享保十二年八月五日松平伊豆守(信祝)牛川原にて立稽古、馬上三十騎¹⁷⁷⁹

安永八年十一、十三今日吉川辺へ六ッ半時御供揃に而鉄砲被為入候。

安永八年十一、二九今日六ッ時前より御鷹野被為入候。△大村の内

安永八年十二、三今暁七ッ半頃御鷹野被出御、大蚊里村二而…御昼休、[△]瓜郷村二而御膳被召上。

安永八年十二、五今日六ッ半頃御鷹野居二牛川辺被為入候。

安永八年十二、十三今朝六ッ時より御鷹野え御出候、柳橋下[△]モニテ…

それより羽田村内二而…それより住吉村御昼休み。△大村より分れ

安永八年九月三、五金田村へ御獅子狩、御帰七ッ半時過也。△石巻山南麓

天明四年三、十七御鷹野に大鷲に御鷹、頭つつかれ落ち候、…¹⁷⁸⁴

右によつて、「御鷹野」は特定地を示さず、「鷹を野に放つ」つまり鷹狩りを指すことが知られる。鷹狩りの地も全く不定の状態である。

六、信順公代 (文化十四年十月十六日〜天保十三年十二月十三日。没は十五年)^{1817〜1844}

文政三年二、六殿様御入(牛川松坂家へ)¹⁸²⁰

文政三年三、一殿様急小休被仰付候、七ッ過御入(同)

文政三年四、六殿様御入(同)御昼上下凡五十人

文政五年五、十五殿様御入(同)

文政七年二、七殿様御鷹野二而御入(同)

天保 中 ^{1830〜44} 忠興押川地内で芝居興行あり。

右によつて信順公は牛川松坂家と特に親しい関係が伺われる。

七、信璋公代

1845

(弘化元年十二月二十九日—嘉永二年九月二十四日)

1844

1849

弘化二年八月二六日殿様牛川村庄五郎方石灰小屋御遊覧二付。

御小休被仰付。(松坂家へ)

弘化二年十、十五殿様忠興^二御越、御小休被仰付。(松坂家へ)

弘化三年五、三殿様石卷山御参詣、御帰路御小休被仰付。(松坂家へ)

弘化五年六、二七牛川原御鉄砲御覧二付御小休被仰付。(松坂家へ)

信璋公がわずかの間に色々見学参詣などにつとめられた方であると知られる。殿様の忠興行きの初見と鉄砲打御覧の初見が注目される。

八、信古公代

(嘉永二年十一月十五日—明治四年七月十四日廃藩)

嘉永三年四、一殿様牛川原御砲台御覧—御帰路御小休被仰付。(松坂家へ)

嘉永三年七、二三風水忠興^二にても二、四軒も申越候。△牛川村にて二軒倒候。

嘉永四年三、二三牛川原^二而芝居興行。

安政二年八、十八殿様牛川原御放鷹。

安政四年八、二一西洋流大砲牛川原^二

放テ今日明日両日有之。

安政五年三、十三殿様：兎狩二御出：牛川御砲台御出御小休。(松坂家へ)

安政五年六、二一忠興小鷹野御用捨米願濟。今日村役人長百姓呼出し

申渡す。

安政五年七、二五牛川原へ—殿様八ツ時ヨリ御馬^二而御自分玉四ツ

御放遊候由。

万延元年八、二九西洋流大砲稽古二牛川原へ罷出候。

万延元年十一、十二忠興田二行、親仁、手前、口入久三郎、売主助二郎

同道、

文久元年八、五牛川原^二而大砲稽古。

文久二年二、二十忠興仁助田見二行、当人、久三郎立会。

文久二年三、五仁助忠興証文昨夜又助持参。

文久三年八、五忠興新田、小鷹野新田御用捨米年限願^{カギリ}継伺、△十九日伺濟

文久三年八、一四薬師山にて西洋流大砲稽古。

元治元年九、十八葦原^北二而鉄砲調練。△梅田川右岸東は高師、西は磯辺、北は草間、

慶応元年十、十七忠興田見二行、凡二割半引役。

慶応二年十、二四忠興田見ル、凡五引。

慶応四年七、五九ツ時御供揃：牛川原調練為御覧被為入候。

慶応四年野川の鶴之丞女房、忠興の男、密通露頭ハ昨冬ニテ合廿両出シ其上証書差出シ、方付ニナル。証文ノ文面ニ野川地、通間敷ト有、当正月車ニテ通り候処見付、車共ニ取上ゲ候而、又々論ニ及候、野川地通行不改書而之証書為書候シモ、書候者モ不行届、忠興ニテハ相手ニ成候者無之ニ付、高井喜藏頼掛合ニ及候由、鶴之丞云伏ラレ候由。

時節柄、大砲、特に西洋流大砲の調練が現れる。それは原則牛川原であり、その外の鉄砲や調練も大方牛川原が中心と知らる。又、安政五年の戸数調で野川、中沢、小鷹野の現地住人が各戸一戸であるのは想像外で、こうした新田開発がすべて富家、富豪によるもので、その使用人が現地に一戸住むのみと知られよう。

九、明治期

明治五年三月各取高

忠興新田	八三石三斗四升二合
野川新田	百六七石七斗四升六合
小鷹野新田	四八石三斗
中沢新田	四一石一斗八升一合

明治十一年七月二十日八名郡長松井讓。二七日郡役所、富岡村。

牛川村「旧牛川村、若宮村、忠興新田、野川新田、小鷹野新田、
中沢新田、田中新田、波之上村以上」合村。

明治三十九年七月一日牛川村と下条村が合併して下川村となる。

十、その後

昭和七年九月一日 下川村を豊橋市に編入。〈牛川町、下条町〉

昭和五三年四月 鷹丘西小鷹野3丁目7-1小学校新設。

鷹丘校区鷹丘 忠興、東小鷹野、西小鷹野、緑ヶ丘。

平成二八年七月二三日

故郷の歴史講座資料

鷹丘文化協会